



作物残留試験

農薬登録のための作物残留分析を行っております。
有効成分及びその代謝物の農薬残留量を各種作物で測定いたします。

● 試験ガイドライン

「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）より「植物の体内での代謝及び農作物等への残留」

● 参考とする分析法

厚生労働省通知：食品に残留する農薬等の試験法

● 受託実績

年間に約140試験を実施（GLP/non-GLP含む）、妥当性試験、保存安定性試験、ドシ工作成（項目：試験一覧表、分析法、保存安定性、残留結果）

■ 作物残留試験：実施作物

生産量が特に多い農作物（メジャー作物）

稲（水稲及び陸稲）・小麦・みかん・かき・なし（日本なし及び西洋なし）・りんご・キャベツ・きゅうり・すいか・だいこん・たまねぎ・トマト・なす・にんじん・ねぎ・はくさい・ほうれんそう・レタス・かんしょ・ばれいしょ・だいず・茶・いね科牧草・まめ科牧草・飼料用とうもろこし、ソルガム

生産量が多い農作物（準メジャー作物）

大麦・未成熟とうもろこし・伊予柑・不知火・なつみかん・はっさく・うめ・キウイフルーツ・ぶどう・もも・こまつな・チンゲンサイ・のぎわな・えだまめ・さやいんげん・セルリー・いちご・かぶ・かぼちゃ・ごぼう・しゅんぎく・しょうが・にら・ピーマン・ブロッコリー・ミニトマト・メロン・れんこん・こんにやく・さといも・やまのいも・あずき・さとうきび・てんさい

生産量の少ない農作物（マイナー作物）

アスパラガス・アボカド・あまなつ・あんず・アーティチョーク・いちじく・いんげん・うど・えごま・エシャロット・えのきたけ・えんどう・おうぎ・おうとう・オオバコエンドロ・おくら・おけら・オレンジ・オータムポエム・カカオ豆・カノコソウ・かぼす・カミメボウキ・からしな・カリフラワー・甘草・きいちご類・きく（葉）・キヌア・きょうな・きんかん・ぎんなん・くり・くるみ・クレソン・くわい・グリーンペッパー・グレープフルーツ・ケール・ごま・コリアンダー・ゴレンシ・ささげ・さやえんどう・サラダ菜・さんしょう・しいたけ・ししとう・しそ・しゃくやく・しゅんぎく・食用きく・食用さくら（葉）・食用ゆり・しろりり・すだち・ズッキーニ・すもも・西洋わさび・せんきゅう・そば・そらまめ・たかな・たけのこ・葉たまねぎ・たらのき・チコリ・ちしゃ・とうがらし・とうがん・トレビス・なたね・なめこ・なばな・にがうり・にんにく・ネクターリン・ネジレフサマメノキ・ハマナス・バナナ・パイナップル・はっか・はつかだいこん・ハトムギ・パセリ・ひらたけ・びわ・ふき・ふきのとう・ブラックベリー・ブルーベリー・パッションフルーツ・ホップ・まいたけ・まくわうり・マッシュルーム・マルメロ・マンゴー・みつば・みょうが・メボウキ・ヤングコーン・ゆうがお・ゆず・ライム・ラズベリー・らっかせい・らっきょう・リーフレタス・レモン・レモングラス・わけぎ





農薬製剤の物理的・化学的性状試験

農薬登録のための製剤の物理化学的な性状の分析、
および経時的な安定性の確認を行います。

● 試験ガイドライン

「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）より「安定性、分解性その他の物理的・化学的性状」

● 受託実績（2022年12月末）

試験製剤

粒剤（水溶性フィルム入り含む）、顆粒水和剤・ドライフロアブル、水和剤（フロアブル、粉末）、液剤、塗布剤（液体）

試験項目

外観、粉末度、粒度、原液安定性、希釈液安定性、水和性、懸垂性、密度、経時安定性、水溶性フィルムの水溶解性、粘度、水溶性、粉末度、表面張力、有効成分・懸垂性の妥当性試験、ドシ工作成項目（試験一覧表、物化性・経時安定性、分析法）

GLP試験数

粒剤（含：水溶性フィルム内包）25試験、顆粒水和剤・ドライフロアブル1試験、水和剤（フロアブル、粉末）28試験、液剤6試験、塗布剤（液体）2試験、水溶剤2試験、エアゾール1試験、有効成分・懸垂性の妥当性15試験





農薬原体及び標準品分析

農薬原体の有効成分や不純物*について分析いたします。

農薬原体は毒性試験に用いた原体と同等性を確認することによって、その安全性を保証しています。

有効成分や不純物の含有量から同等性を確認いたします。

新しく製造場所をつくる場合や、製造方法を変更する場合には同等性を示す検査が必要になります。

*不純物：農薬原体に1 g/kg以上含まれる成分は同定・定量が必要です。製造過程由来物質、分解物、代謝物、残留溶剤、水分、灰分、金属など

● 試験ガイドライン

「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）より「農薬及び農薬原体の組成」

● 受託実績

年間に約40試験を実施、海外提出用データ作成可能

● 農薬原体中の有効成分及び不純物の分析（組成分析、5バッチ分析）

妥当性が確認された分析法にて、農薬原体中の有効成分や不純物の含有量を測定いたします。

● 標準品の純度分析

有効成分や不純物の分析用標品の純度を分析し、成績証明書を発行いたします。

分析項目：対象成分の面積百分率（LC-UV・GC-FID）、水分、残留溶剤など

● 分析法のバリデーション（妥当性確認）

有効成分及び不純物の分析法について、選択性、直線性、精確さ、併行精度、定量限界の必要な項目を確認します。分析法の条件検討も承ります。

■ 分析法実施例

有効成分：GC-FID、LC-UV

不純物：原体製造過程由来物質、有効成分分解物、代謝物、残留溶剤など：GC-FID、GC-MS、LC-UV、LC-MS、イオンクロマトグラフィー他

溶剤不溶分：重量法

水分：カールフィッシャー（電量法）、乾燥減量、灰分：強熱減量、金属：原子吸光、ICP





土壌吸着性試験

好氣的／嫌氣的条件下での土壌中の農薬の土壌吸着の度合いを調査いたします。弊社では非ラベル化合物での試験を実施しております。

● 試験ガイドライン

「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）より「安定性、分解性その他の物理的・化学的性状」
OECDテストガイドライン106

● 受託実績

現在までに延べ15試験を実施





環境中残留農薬分析

農薬登録申請並びに一般的な環境中の残留農薬の調査とサンプリングをいたします。

● 試験ガイドライン

「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）より「環境中における動態及び土壌への残留」

■ 試験項目

- 土壌残留
- 環境中予測濃度算定
- 実水田田面水中濃度測定
- ドリフト（農薬飛散）
- 河川における農薬濃度のモニタリング



■ 受託実績の例（一般）

- 畑が多い地域での大気中の農薬濃度の測定
- 一般家庭での殺虫剤散布後の気中濃度測定
- 土壌燻蒸剤による地下水への影響調査
- 樹幹注入剤施用後の葉及び根、枝の残留農薬分析
- ドローンでの農薬散布実証実験
- シロアリ駆除剤の残留分析

■ サンプリング

国内のどこの場所でも採取可能です。
費用抑えるため採取場所に近い提携企業と連携し、サンプリング可能です





農薬使用時における作業着暴露試験

薬剤処理時の作業者の暴露程度についての分析をいたします。

● 試験ガイドライン

「農薬の登録申請において提出すべき資料について」（平成31年3月29日付け30消安第6278号農林水産省消費・安全局長通知）より「圃場における農薬使用者暴露」

■ 試験項目

気中濃度・作業着オンバッチテスト・作業着分析 他
薬剤処理後の作業着等の残留分析を行っております。

